



赤ちゃんとの暮らしを チームで応援!

大きな木の下で
2024年度 活動報告書

【連携団体】

- 福山市保健福祉局ネウボラ推進課
- 福山市町づくりサポートセンター
- 福山市神辺交流館
- 福山市民局神辺支所 神辺地域振興課
- 福山市社会福祉協議会
- 福山市民局神辺支所 保健福祉課



妊娠中から赤ちゃんとの暮らしをチームで応援!

大きな木の下で

お問い合わせはメール、電話、又は公式ラインアカウントよりお願い致します。

TEL:090-9007-6564
広島県福山市神辺町川南3087
✉ okinakinoshita@gmail.com



【公式ホームページ】
【公式LINE】
【公式Instagram】

全てこちらの
QRコードから



独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業



活動概要・主旨

出産したすべての親子の育児生活が多面的に応援でき、育児生活不安がゼロになれることを目指して、母と子に伴走した6年目でした。又、独立行政法人福祉医療機構(WAM)社会福祉振興助成事業通常助成の助成活動において地域に根ざす活動の3年目でした。

会の活動の拡大に伴い、生後2か月からの赤ちゃんとの身体発達のゆっくりなお子さんのための生活と発達支援の必要性が見えてきました。多くの親子の居場所の役割として①妊婦café ②ねんねの赤ちゃんの会 ③ハイハイの赤ちゃんの会 ④あんよの会が充実拡大⑤どんぐりの会が発足し、5つの会になりました。地域との交流も増え、理解され始めて、ようやく地域密着の土台ができた年でした。

歩み

- 2019年12月 赤ちゃんとの生活に不安を抱えて過ごしている母達へのチームでのサポートを開始
コロナ禍となり、在宅支援は困難となり月1回の子育て・食支援を開始した。
- 2020年度 一般社団法人グリーンコープひろしま福祉活動組合員基金
福山地区開業助産師・理学療法士による講演と実技を行う。
- 2021年度 第33回NHK厚生文化事業団わかば基金
リサイクルパソコン3台支援
- 2021年度 公益財団法人ツネイシ財団
下半期 チームによる月一講座開催
- 2022年4月 独立行政法人福祉医療機構(WAM)社会福祉振興助成事業
居場所による事業開始
- 2023年年度 2回目WAM助成決定し、6月より神辺町の古民家を拠点に活動開始。
7月から、①妊婦café ②ねんね ③ハイハイ ④あんよの会 4グループに分けての活動を始める。
- 2024年年度 3回目WAM助成決定する。地域に根差した活動も併せて、近くの神辺交流館との交流が深まり
①妊婦café ②ねんね ③ハイハイ ④あんよ ⑤どんぐりの会の5グループに分けて活動は拡大した。
神辺未来会議の活動に参加。



★大きな木の下で開催場所
広島県福山市神辺町川南3087

妊婦Café

妊娠中の過ごし方、赤ちゃんとの関わり方、
母乳育児に向けての準備などの伴走



場所:古民家 参加費:無料
2024年4月～2025年3月 第1火曜日開催
10:00～11:30

週	4月	5月	6月	7月	9月	10月	1月	2月	3月	合計
第1週	1	2	4	4	1	1	1	2	1	17

(参加人数/単位:人)

アドバイザー

村口: 昨年度ご縁のあった母が妊娠し、今回は早い時期からの参加を望まれ参加されたり、天候の都合でzoomの月もありました。母同士で体をほぐしあい、母乳育児の準備と育児力になる心の準備を行うことが助産師としての目標でした。出産後の乗り切り術の一つになればと公式ラインからのアドバイスも行っています。

細川: 隔月1回の妊娠期の食の提案は妊娠期の食事にとどまらず、母親と生まれてくる赤ちゃんの体と心を作るために、そして、生まれてきてからの母体の回復と授乳、離乳食と続いていく食事と地続きです。妊娠期の適切な摂取量や栄養的内容、作りやすい方法など目前で触って一緒に、「おいしい」「これならできる」を体感して、自宅での実践につなげています。

参加者より (アンケート抜粋)

- 普段、助産師さんとゆっくりお話しできる時間はあまりなく、疑問に思っていることなど聞けてとても安心しました。
- 食のことに元々興味もあったので勉強になったのと母乳育児の重要性を改めて感じる事ができました。
- ゆったりとした穏やかな空間で、リラックスできる環境でした。
- はじめての妊娠、これからの育児にわからないことだらけだったけど、大きな木の下に参加でき、不安やわからないことが聞ける、また同じ子育てをしている人と交流ができる場があることが、今後とっても安心です。



どんぐりの会

発達のゆっくりさんと
3か月までの赤ちゃんを
対象にした身体の発達の応援



第1火曜日 13:00～14:30

- ① 生後2か月からの発達を理解する
- ② 一人一人に合わせた赤ちゃん体操
- ③ 助産師の授乳相談も同時に行う

週	6月	9月	10月	1月	2月	3月	合計
第1週	7	9	10	4	4	6	40

(参加人数/単位:人)

アドバイザー

村口: 月1回、時間をかけて体の発達についての説明と赤ちゃん体操を行っています。母達は自分の赤ちゃんの個性を早くに理解でき、我が子を丸ごと受け入れる準備ができると確信しました。月齢に合わせた赤ちゃんの発達を理解され、翌週はねんねの会・ハイハイの会に参加されます。少人数なので、よく泣く子の母の不安にも寄り添いやすく、母も遠慮なく参加できるようになり、必要な会だと感じています。

参加者より (アンケート抜粋)

- 生きた学びができるから。そして出席されている方達とも繋がれてうれしいです。
- 温かい雰囲気の中で、我が子と向き合ってたっさん体に触れることができ良かったです。体の部位に合わせているんな触れ方があることや、体がほぐれていくことで体の動きに繋がって子どもの「できた」という経験が増えていくことなど、たくさん学ぶことができました。

アドバイザー紹介



村口 裕美
助産師/保健師
(代表・兼事務局)

母子保健活動において、地域の母子生活を総合的に支えて約30年。
2001年 第23回
母子保健奨励賞 受賞



藤井 鈴子
栄養士/元保育園園長
(副代表・兼会計)

さくら-さくらんぼ保育に関わり約30年。保育園園長歴任。
2016年「野菜たっぷりたんぼぼごはん」監修



細川 良子
管理栄養士/健康咀嚼指導士
(副代表・兼事務局)

乳幼児食における咀嚼評価・母子支援・離乳食指導に関わり27年。
2023年度岡山県備中保健所長賞(栄養改善事業功労)受賞

スタッフ紹介



浅沼 信子
介護福祉士
(SNS発信・環境設営)



下江 律子
保育士
(遊びサポート)



村井 知美
三児の母
(会計補助)

ねんねの赤ちゃんの会

赤ちゃんとの関係づくり、授乳の悩み、離乳食の始め方の伴走



- ① わが子の身体発達段階の確認をする。
- ② 食べる機能の前段階を理解する。
- ③ 継続してわが子にできる体操やマッサージ・触れ合いあそびを行う。
- ④ 仲間ができるように応援する。

場所:古民家 13:00 ~ 14:30
2024年4月~2025年3月 毎週水曜日

週	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	1月	2月	3月	合計
第1週	—	—	10	8	6	12	22	—	16	5	608
第2週	19	20	9	12	13	23	20	18	14	8	
第3週	23	18	17	10	15	6	—	14	15	8	
第4週	21	14	13	10	21	22	20	16	16	14	
第5週	—	18	—	14	—	14	20	14	—	—	

(参加人数/単位:人)



アドバイザー

村口: 生後2か月からの利用者が増え、授乳風景を見ながら授乳に関する質問をアドバイスできた事は、大切なポイントでした。又、赤ちゃんの体に触れながら視線を合わせ、言葉をかけ、家でもできる赤ちゃんとの触れ合い方を毎週お伝えすると、お家でも実践され、はじめの一步は誰でも一緒なんだと理解されるようになり、継続3ヵ月程で、赤ちゃんの喜ぶ笑顔の多い母達になっていきました。

藤井: ワム3年目を迎え、充実した1年になりました。口コミでお母さんか声をかけてくださったり、2人目、3人目で来てくださったり、活動の意義を感じました。初めての子育てにとって、おっぱいの事、赤ちゃんとの関わり方、遊ばせ方 離乳食の進め方など、毎週来る事で不安が無くなり笑顔になっていられるお母さんを嬉しく思いました。

細川: 離乳食が始まる準備として、介助での捕食機能の促し方を母同士でしあう、離乳食に作り方を目の前で見せて一緒に食べる、離乳食を食べさせるところを観察して進み具合や抱っこでも介助の仕方など、本やSNSでは得られない、シンプルで家庭の状況やその子に合わせて実践的なアドバイスを心掛けています。

参加者より (アンケート抜粋)

- 回を追うごとに他の参加者さんのお子さんにも愛着が湧き、あの子がこんなに成長してる!こんなこと出来るようになって凄い!など、みんなで子どもの成長を見守ってる雰囲気があります。いい場だなと感じています。
- 子どもの成長に合わせて必要なことを丁寧に教えてくれて安心できました。
- 色々気になっていたことを聞いて、大丈夫だよと言っただけ、またこうしてみたら?というアドバイスもいっただけ、やっぱりとても安心できる場所だなあーと改めて思いました。
- 他の赤ちゃんとの関わりが積極的にできました!

ハイハイの会

広い場所でのハイハイの保障。
授乳、離乳食の関係と嚥下力などを通し離乳食、中・後期を豊かに、遊び方の伴走



- ① 食支援の方法に月1回の離乳食講座。
- ② 室内では肋骨・廊下這い這い、室外では土山で遊ぶ。
- ③ 助産師、栄養士の個別相談も同時に行う(卒乳に向けての相談など)。

場所:古民家 10:00 ~ 11:30
2024年4月~2025年3月 毎週水曜日

週	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	1月	2月	3月	合計
第1週	—	—	18	20	16	12	12	—	16	19	684
第2週	14	16	14	22	16	14	18	22	14	16	
第3週	12	18	16	14	26	9	—	12	14	22	
第4週	16	19	21	18	20	22	18	12	16	16	
第5週	—	14	—	24	—	22	8	16	—	—	

(参加人数/単位:人)



アドバイザー

藤井: いつも満員のハイハイの会でした。いっぱいハイハイ出来る場所がない住宅事情から、大きな木の下古民の回り廊下は、子どもたちにとっては魅力的で、みんなでハイハイを楽しみました。また感覚神経を育てたいこの時期、土や水での遊びもだんだん大胆に遊べるようになりました。月1の離乳食実習から離乳食の形状や固さの変化も伝え、お母さん達の学びになったと思います。

細川: 季節感を大切に日常的な料理である味噌汁や煮物などの食の伝承もふれられるような大人の食事からの離乳食への展開をしています。母たちと一緒に作って、あかちゃんと一緒に食べることで「これでいいんだ」「食べなかったものでも食べる」と実感し繰り返し家庭の中でも食卓上がる風景を母達の会話の中でもでてくるようになってきました。

村口: 身体の発達のために、心も豊かに成長していく時期です。子どもの望む環境を整え、母と共に遊ぶことの大切さを提供し、授乳から離乳食へ移行していく時期の不安に伴走すると、母達は離乳食弁当も無理なく持参されるようになりました。今年度はからだと共に育つ「こころ」のために「わらべ歌」にも力を注ぎました。授乳期の課題、離乳食問題を支援者による個別アドバイス効果でしっかりと乗り越えられていく母と子の姿を見ることができました。

参加者より (アンケート抜粋)

- 楽しそうに遊んでいたし、私もリフレッシュになりました。
- 他の子の成長を共有できました。
- 砂場がなかなか出会えないので砂山で砂を触ったりして遊ぶことも嬉しいです。
- 日々の変化をよく覚えて下さっていて、状態に応じたアドバイスをしてくださりました。
- 管理栄養士に調理のコツや今の食事形態について詳しく教われました。
- 断乳前後のアドバイスとお乳の様子を見てもらえました。



あんよの会

変化のある場所での歩行、土、水での遊び
移行食の伴走

場所:古民家 10:00 ~ 11:30
2024年4月~2025年3月 第2・4火曜日

週	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	1月	2月	3月	合計
第2週	8	8	6	8	10	8	8	7	14		191
第4週	8	10	6	6	10	6	20	18	16	14	

(参加人数/単位:人)

アドバイザー

藤井: 始め3・4人のあんよの会でしたが、後半は10名近い参加となりました。2人目が生まれて、2人の子育てをしているお母さん達や、育休を3年取るお母さん達は、子どもたちの遊び場を求めておられました。歩ける力を強くする散歩や、土、水遊びなどお友達がいる事で一層楽しくなる年齢を楽しく過ごしています。自我も出てきて、好き嫌いやイヤ期と一緒に乗り切ります。

須田: 参加された方達は、遊び場やお母さんたちとの交流の場を求めて来ているのかなという感じでした。毎回お母さんたちも日頃の疲れを癒してもらおうとストレッチをして親子のふれあい遊び、リズム遊びを少しして身体と心をほぐしました。それから築山で土遊び、夏は水遊び、秋や暖かい冬はお散歩へ出かけて遊びました。

下江: 触れ合い遊びは、心と身体を揺さぶり笑顔を引き出す大切な活動の一つとして取り入れてきました。会に参加して2年。これからも子どもたちに寄り添いながら成長を見守っていきたくと思います。

参加者より (アンケート抜粋)

- 月齢の近い友達とお散歩に行ってきたこと、たくさん歩いて活動できたことがよかった。たくさん発見もあって楽しい時間になりました!
- 皆さんと体を動かして、いちご狩りや春のお花を見て感動の共通体験が出来て、心に栄養をたくさんチャージしました。
- あんよの会の日だけは、帰宅後もよく寝てくれ、家事が捗るので近くにこういう場がある事、大変ありがたいです。
- 子ども同士の関わりがあり、1歳を過ぎて家庭保育を継続されているお母さん同士の繋がりがある事も非常にありがたいと感じた会でした。

- ① 歩く力を散歩や肋木遊びで確かなものにし、水でしっかり遊ぶ。
- ② 幼児食への移行期食を食べる。手作り弁当を食べる。(栄養士の個別指導を含む)
- ③ 保育士、栄養士による仲間と個別遊びの提案



子ども料理教室

講師:藤井 鈴子

2024年8月3日(土)
10:00 ~ 11:30
場所:福山すこやかセンター
参加人数:32人

アドバイザー

藤井: 夏休みに自分で昼ご飯を作るようにと取り組んでいます。今年は、そうめんと野菜炒めでした。高校生から小学1年生まで32名の幅広い参加でした。子どもたちはみんな真剣に取り組み、自分で作ったご飯は美味しかったと評判でした。



いのちの講座

講師:村口 裕美

2024年9月20日(金) 10:00 ~ 11:30
場所:福山市シュタイナー学院
参加人数:4・5年生の親子6人

生まれて間もない赤ちゃんを通しながら、第二次性徴期を迎えた思春期の女子生徒さんとその親と対話しながら自分を見つめてもらいました。抱っこも上手。照れくさそうに母を見つめている姿が印象的でした。

2025年2月23日(日) 場所:市立山手保育園
参加人数:保護者と職員43名

保育園保護者を対象。生活習慣の捉え方、赤ちゃんの時から身体の使い方など振り返ってもらいました。母達からの子育ての不安にも答えながら、参観日親子食風景等拝見し、困りごとにお答えしました。



福山市子育て応援ウイーク (福山市採択イベント)



◆妊婦Café (家族参加) 2024年11月4日(月・祝) 10:00 ~ 11:30
場所:古民家 参加人数:11人

妊娠中の食作り/家族で味わう・妊娠後期の身体マッサージ

参加者より (アンケート抜粋)

- 調理法、妊娠中から足へのマッサージを夫について家族で理解しました。
- 足のマッサージを夫婦でやってみようと思いました。



◆ねんねの赤ちゃんの会 「わらべうたを育児に活かそう」(家族参加)

2024年11月23日(土・祝) 13:00 ~ 14:30
場所:古民家 参加人数:22人

講師/前田和子(おのみちわらべ歌伝承研究会「おのみちわらべ」主宰)

参加者より (アンケート抜粋)

- たくさんのわらべ歌(抱っこして歌う)を知れました。
- 子どもが大きくなってても歌っていいんだ!全然歌ってこなかったから、今から歌おうと思います。

前田: 安心感いっぱい空間とスタッフの皆様方のおかげで、赤ちゃんを真ん中に家族が輪になり、歌いかけたり笑い合ったりの和やかなじかんでした。わらべうたの知恵が各家庭の笑顔の歴史に繋がっていくことを願っています。



◆ハイハイとあんよの会 (兄弟・家族参加)

2024年11月23日(土・祝) 10:00 ~ 11:30
場所:神辺交流館講堂 参加人数:55人

講師/須田知子(保育士)

参加者より (アンケート抜粋)

- ぼんぼポン!子どもの好きな遊びだったんだなあ...
- 上の子との参加、テンションが上がってるのがわかり、家族で触れあえて、嬉しかったです。

須田: たくさんの方に参加して頂き、お父さんの参加も多く遊び方や関わり方で大切にすることなどお伝えできたかと思えます。リズムあそびも初めての方でもやってみて下さっていました。ふれあい遊びでも子どもたちの笑顔が見られ良かったです。



外来講師紹介



須田 知子 【保育士】
福山市で保育士として20数年勤務、活動。さくら-さくらんぼ保育、学童保育、児童発達支援を経験。親子の遊びを中心に、発達に応じた遊びや関わり方をお伝えしています。また、保育士さんたちの質の向上を目指し、保育士向け講座もしています。



前田 和子
おのみちわらべ歌伝承研究会「おのみちわらべ」主宰。尾道市子育て支援センター、市の小学校・図書館・子育てサロン・保育ボランティア講座で、わらべ歌講座を担当しています。

【地域交流】



町づくりサポートセンター つれのうて文化祭



神辺学区民ふれあいまつり



FMふくやま出演



からだにやさしいランチ



かなべ未来会議 ワークショップ参加